

解説04 自分の英語力について考える

【解説】

スピーキング力の指標

英語のスピーキングによる発話を考えるときに、(1) 流暢さ、(2) 正確さ、(3) 複雑さ、の3つの側面が重要な指標となります。すなわち、(1) すらすらと、(2) 間違いなく、(3) 多くの単語と複雑な構文を使って、英語を話せるのが、理想的な英語力だと言えます。

注意力の限界

ただし、人間の注意力には限界があります。一度に複数のことに注意を向けることは難しいとされています。私たちにとって外国語である英語を話すときは特にそうです。すらすらと流暢に話すと、間違いやすい。また、難しい構文を使っていると、つかえながら話すことになる。流暢さ、正確さ、複雑さの3つの側面の力を向上させるためには、順番に1つ1つの側面に重きをおいて練習しなければなりません。いつも流暢さばかり重要視してはいけませんし、いつも正確さばかり重要視してもいけません。

流暢さ、正確さ、複雑さの変化

今回の課題では、町や地域を紹介するという問いを、3通りの条件下で録音してみました。問1は、練習や準備なしで録音したので、緊張していたかもしれません。流暢さよりも正確さを重要視していたかもしれません。問2は2回目だったので、より流暢になったかもしれません。つまり「間」の回数が減ったかもしれません。逆に、内容についてより深めたいと考えた場合には、問2は問1と比べて単語や文がより複雑になったかもしれません。問3は、準備時間がありました。準備時間がなかった問1や問2と比べて、どのような違いがあったのでしょうか。自分がどの側面に注目して準備したのかによって、流暢さや正確さ、複雑さの違いが見られたのではないのでしょうか。つまり、内容を考えるのに時間をかけた場合は流暢さや複雑さが高かったでしょうし、使用する単語や文法を準備した場合は流暢さや正確さの向上につながったことでしょう。

今後の英語学習のために

このように、練習や準備をしたかどうか、また何に自分が注意を向けていたかによって、発話の質が変わってきます。今後、英語を学習する際には、時と場合によって、3つの側面に注意を向けると、長い目で見てバランスよく英語が上達することになります。